

令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・漢字について、小テスト実施の成果が出ている学年がある。
- ・文章の読み取りについて、成果の出ている学年がある。
- ・タブレットの活用によって、主体的に学習に取り組む生徒が増えた。

(2) 課題

- ・「漢字を書く」「文章を読み取る」分野の正答率を上げる必要がある。
- ・「情報の扱い方に関する事項」についてしっかり学ぶ必要がある。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」について、学年が進むにつれて数値が減少する傾向にある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	「知識・技能」において目標値を0.6ポイント下回った。 「思考・判断・表現」において目標値を3.2ポイント上回った。 「主体的に学習に取り組む態度」において3.1ポイント上回った。	/	/
第2学年	「知識・技能」において目標値を下回った。 「思考・判断・表現」において目標値と同一だった。 「主体的に学習に取り組む態度」において目標値を上回った。	全ての項目で目標値を上回った。 (第1学年時)	/
第3学年	すべての領域において、目標値を下回った。	「知識・技能」において、目標値を下回った。 (第2学年時)	「思考・判断・表現」において、目標値を下回った。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「漢字を書く」分野では4.3ポイント、「我が国の言語文化に関する」事項では4.1ポイント下回った。	「文章を書く」分野において、校内平均正答率が目標値を10ポイント以上上回った。全体として目標値を3.2ポイント上回った。	全体として目標値を3.1ポイント上回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言葉の特徴や使い方に関する事項で、目標値を下回った。	「書くこと」の領域において、目標値を上回った。しかし、「読むこと」の領域において、目標値を下回った。	目標値は上回っているが、まだまだ改善の余地がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「文法・語句に関する事項」で、目標値を大きく下回った。	すべての領域において、目標値を大きく下回った。特に「話すこと・聞くこと」の領域の数値が低かった。	目標値を大きく下回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の書き取りテストを月例で実施し、間違えた問題を繰り返し書く練習をする。古典文学への関心を高めるため暗誦活動や調べ学習・発表を取り入れる。	「書くこと」は平均を大きく上回ったが、文章を読み取る分野は説明的文章1. 2ポイント、文学的文章2. 5ポイントと微かに上回るに留まった。単元テストとその分析をその都度詳細に行い、苦手を克服していくようにする。	単元テスト、定期考査などテストを実施するたびに具体的な振り返りを行っていく。自分の苦手分野や学習方法を見つめ直し、積極的に軌道修正していく機会を提供する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字プリントを配布し、学習の機会を設ける。身近な例などを示し、言語事項や文法事項などに興味をもって学習できるように工夫していく。	説明文の読み方を意識して、学習していく。筆者の言いたいことが読み取れるように、要約を行っていく。	生徒が自ら進んで学習できるように、学び合う場を多く設ける。また、互いの意見に触れる機会を多くつくり、自身の考えを広げていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の小テストやコンテンツを継続しつつ、文法事項の復習を授業で行っていく。	学習成果を発表する機会を設け、アウトプットを意識した学習の展開を図る。	学習目標・課題をタブレットで提示し、生徒自ら学習できるようにする。また、学習内容の具体的な振り返りを、タブレットを用いて行う。

令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTを活用し、生徒が主体的な態度で授業に取り組んだ。
- ・話し合い活動を増やし、生徒が思考する機会が増えた。

(2) 課題

- ・基礎、基本的な内容の定着。
- ・資料を読み取り、表現する能力の向上。
- ・ICTを活用し、話し合い活動や調べ学習を充実させる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	基礎も活用も目標値を下回った。 特に基礎は大きく下回った。	/	/
第2学年	基礎も活用も目標値を下回った。 特に活用は大きく下回った。	基礎も活用も目標値を下回った。 (第1学年時)	/
第3学年	基礎も活用も目標値を下回った。 特に活用は大きく下回った。	基礎も活用も目標値を下回った。 (第2学年時)	基礎も活用も目標値を下回った。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
特に歴史的分野で目標値を大きく下回っている。	目標値とほぼ同程度である。	特に歴史的分野で目標値を大きく下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中世の日本を除いて、目標値を下回っている。	記述の問題が目標値を大きく下回っている。	世界の諸地域の分野で大きく目標値を下回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史分野で目標値を下回っている。	記述の問題が目標値を大きく下回っている。	歴史分野で目標値を下回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各授業の最初で、用語確認の時間をとり、知識の定着を図る。	資料から読み取れることを記述させたり、話し合わせたりする機会を増やす。	文章を書かせるだけではなく、作品を作るなどのパフォーマンス課題を多く実施する。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
節ごとに小テストを行い、知識の定着を図る。	資料から読み取れることを授業中に記述させ、書くことへの抵抗感を減らす。	自分なりに工夫したノートを作成させる。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業の初めに小テストを行い、基礎知識の獲得を目指す。	資料から読み取れることを記述させたり、話合わせたりする機会を増やす。	自分なりに工夫したノートを作成させる。

令和5年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・タブレットを利用したグループ学習を取り入れることで、他の考え方を聞いて、自分の考えを整理し表現する力が身に付いた。
- ・単元テストや小テストを多く取り入れ、復習の機会を増やし基礎・基本が定着した。

(2) 課題

- ・文章問題や応用問題への取り組みが消極的である。
- ・授業中には理解しても、知識の定着につながらない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	基礎と活用の正答率は共に目標値を下回った。特に、「小数・分数の計算」で大きく下回った。	/	/
第2学年	昨年度から正答率が上昇し、目標値を上回った。「計算の復習や空間図形」では目標値を下回った。	活用では目標値を上回った。「小数や分数の計算」、「データの活用」で大きく下回った。 (第1学年時)	/
第3学年	「計算の復習」や「証明」、「確率」は目標値を上回った。「1次関数」では目標値を大きく下回った。	正答率では、基礎と活用共に目標値を下回った。問題の内容別正答率では特に、「計算の復習」、「比例・反比例」で大きく下回った。 (第2学年時)	基礎の「思考・判断・表現」で目標値を下回った。問題の内容別正答率では特に、「小数や分数の計算」、「整数の性質」で大きく下回った。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小数や分数の計算は定着が不十分である。また、中央値や最頻値についての理解が不十分である。	比を用いて、1つの量から他の量を求めることに苦手意識がある。	実際のデータの棒グラフや円グラフから必要な情報を読み取ろうとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小数や分数、負の数を含む計算や大小関係の比較が不十分である。	図形の見方や考え方、立体図形の読み取りが不十分である。	問題文やヒストグラムの読み取りに苦手意識があり、正しく読み取ることが不十分である。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
展開・因数分解の公式を活用して解こうとせず、時間をかけて解答する傾向がある。	文章を立式することに苦手意識をもっている。	計算問題など、プリントなどで繰り返し解くことができる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元テストを取り入れ、復習の機会を多くする。繰り返しの演習で、基礎力の定着を図る。ICTを活用し、個別最適な学習を行う。	グループ学習を取り入れることで、他の考え方を聞いて、自分の考えを整理し、自分の考えを表現する力を身に付けさせる。	ICTを活用し、個別最適な基礎・基本の学習を繰り返し、できる問題を増やす。また日常の事象にちなんだ発展的な問題にも取り組む。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
繰り返し計算練習を行い、計算技能の定着を図る。	展開図や見取図、投影図などの空間図形の読み取る力を身に付けさせる。	タブレット等を活用し、問題文や図、グラフからの読み取る力を身に付けさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
繰り返し計算練習を行い、計算技能の定着を図る。	文章題を繰り返し解き、立式のポイントを押さえさせる。	基礎・基本の学習を繰り返し、できる問題を増やす。

令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTを活用し、学習意欲を高めることができた。
- ・問題演習を繰り返し行い、基礎・基本の定着を図ることができた。
- ・観察・実験を安全に実施し、技能の向上を図ることができた。

(2) 課題

- ・実験観察の技能の向上。
- ・主体的で深い学びにつなげるための科学的思考を深める工夫。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	目標値を下回っており、特に生命・地球分野の正答率が低い。	/	/
第2学年	目標値を下回っている。特に植物や動物の分類、光や音の性質についての正答率が低い。	目標値をわずかに上回っているが、植物のつくりとはたらきの正答率は低い。(第1学年時)	/
第3学年	目標値を下回っている。特にエネルギー分野の正答率が低い。	目標値をわずかに下回っている。物質の状態変化・光の性質についての正答率が低い。(第2学年時)	目標値をわずかに下回っている。特に生命・地球分野の正答率が低い。(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値をわずかに下回っている。植物のつくりとはたらきや動物のからだのつくりとはたらきの正答率が低かった。	目標値をわずかに上回っている。物の溶け方や生物と環境の正答率が低かった。	目標値をわずかに下回っている。植物のつくりとはたらきや生物と環境の正答率が低かった。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値をわずかに下回っている。植物の分類および動物の分類、また火山についての正答率が低い。	目標値を下回っている。動物の分類や光の性質についての正答率が低い。	目標値を下回っている。植物の分類や光や音の性質についての正答率が低い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。エネルギー分野に課題がある。	目標値を下回っている。記述式問題の正答率が大きく下回っていた。	目標値を下回っており、特にエネルギー分野の正答率が大きく下回っていた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットを活用し、映像などによって視覚的に理解を深め、ドリルなどを復習に活用して知識の定着を促す。顕微鏡などを用いた実習を増やし、技能の習得を促す。	実験結果や考察を記述したり、自らの考えを発表したりする機会を増やし、事象や考えをまとめる機会を増やす。	実験や考察などの活動において、各自に役割分担や責任が生じるように授業形態を工夫し、主体的に学習に取り組む態度を育てる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2～3時間に1回程度小テストを行い、基礎的な知識の定着を図る。 授業で学んだ知識を定着させるために、生徒がお互いに説明、確認する時間を設ける。	実験の目的を明確にし、課題解決のための実験を計画し、実施する。実験結果をもとに課題解決を行うよう指導していく。 タブレットを用いて自分の考えをアウトプットする機会を増やし、周りの考えに触れて考えを深める時間を多く設ける。	学習内容を身近な生活と結びつけた指導を行い、主体的に学ぶ態度の基礎を定着させる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験を行う理由を明確にし、目的意識をもって実験を行うよう指導していく。また、練習問題を繰り返し行い、知識の定着を図る。	タブレットを用いて自分の考えをアウトプットする機会を増やし、周りの考えに触れて深める時間を多く設ける。また、考察の際も個人→班でのディスカッション→全体での発表の手順で進められるように授業展開する。	興味関心を引き出せるように、日常生活とのつながりや実験を取り入れて主体的に学ぶ態度の基礎を定着させる。

令和5年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ペアワークやグループワークを通して生徒同士が意見を共有することで、様々な自己表現活動に意欲的に取り組む生徒が多く見られる。
- ・対話文の聞き取りや内容理解には積極的で、日常的な話題の概要把握をする力は身に付いている。

(2) 課題

- ・教科書の内容に基づいた基本的な語彙・文法の定着に課題が見られるため、理解度確認テストや単語テスト等を実施し、繰り返し基礎を確認する必要がある。
- ・書くことへの抵抗感を抱く生徒が一定数いるため、基本的な語彙・文法を用いて、書く力を段階的に身に付けることができるように活動を工夫する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	すべての観点において、目標値とほぼ同等か、それを上回っている。	/	/
第2学年	すべての観点において、目標値とほぼ同等か、それを上回っている。	すべての観点において、目標値とほぼ同等か、それを上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	すべての観点において、目標値とほぼ同等か、それを上回っている。	知識・技能の観点のみ目標値を上回っている。 (第2学年時)	主体的に学習に取り組む態度の観点において、目標値を下回っている (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと、読むことの領域においては、概ね小学校で学んだことが定着している。とりわけ、国名・場所と楽しめること・食べられるものなど、身近な内容を聞き取る力に長けている。アルファベットの音を聞いて正しい大文字を書く技能に課題が見られる。	日常の様々な場面に使用できる表現を理解し、聞くことができている。また、自分のことについて紹介する文を正確に書くことができている。	自己表現に対して、高い意欲をもって取り組むことができている。どの項目においても高い正答率が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対話文の情報の読み取りや文の語順の理解は、昨年度よりも改善が見られ、目標値を上回っている。英文の内容の理解には課題が見られる。	リスニングにおいて、日常的话题についての概要把握ができています。対話の流れに沿って、適切な英文を書くことに大いに課題が見られる。	主体的に自己表現活動に取り組む態度は見られる。どんなテーマにも対応できる力を身に付ける必要がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対話文の情報の読み取りや長文内容理解は、昨年度と比べて定着しつつある。一方で基本的な語形・語法の理解には課題が見られる。	テーマに応じて、相手に伝わる英文の記述力が身に付いている。必要な情報を聞き取り、適切な英文を書くことには課題が見られる。	3文以上の英作文において、主体的に取り組もうとする様子が見られる。また、既習内容を用いて、相手に伝えようとする意欲は高い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞いたことを正確に書くディクテーションや教科書本文の視写活動を通して文字を書くことに慣れる必要がある。	リスニング、スピーキングにおいて様々な場面を想定した言語活動を多く取り入れ、表現を理解したり活用したりする機会を増やす。	タブレットを活用し、ゲーム性のある活動や自由度の高い言語活動を用いて取り組もうとする意欲を支援する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科書を利用し、基本的な語彙・文法知識の補充を図る。音声や視覚的な補助を効果的に利用し、読むこと・書くことへの抵抗感を減らしていく。	長文やリスニングの内容を理解し、自分の言葉で相手に伝える活動（リテリング）を増やす必要がある。ペアワークやグループワークを取り入れ、共有した内容を自己表現に生かせるようにする。	様々なテーマに応じた表現を身に付け、実際に使うことができるよう、毎時間のペアワークやパフォーマンステストの工夫をする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科書本文やワークを利用し、語彙・文法知識の補充を図る。	毎時間の授業における様々なテーマに基づいた英作文を書く活動の成果が見られるので、継続してこの活動に取り組ませる。	ペアやグループワークを取り入れながら場面に応じた表現の向上を図る。個に応じた指導を心がけ、生徒の自己表現活動の意欲を高めていく。

令和5年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・器楽の授業においてハンドベルに取り組み、「姿勢・音色・表現」を意識させ、基本的な表現の技能を身に付けることができた。
- ・和楽器の指導において、基本奏法を中心とし、楽器に親しませることができた。
- ・歌唱表現において、基本的な技術の指導をすることができた。
- ・鑑賞において、総合芸術である歌舞伎や日本伝統芸能の雅楽、世界の諸民族の音楽を扱い、音楽的知識・音楽的感受性の幅を広げることができた。

(2) 課題

- ・合唱及び歌唱における表現（表情）の基礎的な技術の習得及び表現の工夫に課題がある。
- ・鑑賞において、音楽を感受したことを「言葉で表す」ことに課題がある。
- ・学んだ知識を自分の表現につなげることに課題がみられる。

分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱に対して、自信をもって取り組んでいる生徒が多い。リズム表現においては、意欲的に取り組む生徒が多い。器楽・創作に対し苦手意識の強い生徒が多い。	器楽において表現の創意工夫に苦勞している生徒が見られる。 音楽をよく聴き、落ち着いて鑑賞している。知覚・感受したことを言葉で表すことに苦手意識がある。	音楽に対する意欲・関心が高い。また、歌唱以外の学習に対しても、興味・関心をもって取り組んでいる生徒が多い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
鑑賞においては、興味をもって取り組む生徒が多い。器楽・歌唱・創作に対する苦手意識を強くもつ生徒が多い。	音楽をよく聴き、落ち着いて鑑賞している生徒が多い。知覚・感受したことを言葉で豊かに表すことに苦手意識がある。 音楽の基礎的な知識が定着してきているが、それらを表現につなげることに課題がある。	歌唱に対する意欲・関心は高いが、鑑賞や器楽に対して自信のない生徒が多い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱表現に意欲的に取り組む生徒が多い。 鑑賞・創作に対し苦手意識の強い生徒が多い。	音楽をよく聴き、落ち着いて鑑賞している生徒が多い。知覚・感受したことを言葉で表すことに意欲的になっているものの、やや苦手意識が残る。 学習した音楽の知識を理解して、自分なりに表現することができ始めているが、やや苦手意識を感じている生徒が多い。	歌唱に対する意欲・関心は学年が上がるとともに高まっている。また、その他の学習に対しても、意欲的に取り組むようになっている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
器楽・創作において様々な演奏を聴く。それらを自分の表現につなげられるようにする。	音楽の基礎的な知識の定着を徹底する。また学習した知識を表現につなげられるように、様々な演奏を聴き、表現の幅を広げる。	学習したことに自信をもって意欲的に表現できるように、「身近な周りの音楽(音)」と関連させ、自ら表現できる生徒を育成する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
器楽・創作における基礎的な技能を身に付けられるように授業で反復練習を行う。また様々な演奏を聴く。それらを自分の表現につなげられるようにする。	音楽の基礎的な知識の定着を徹底する。また学習した知識を表現につなげられるように、様々な演奏を聴き、歌唱し、表現の幅を広げる。	学習したことに自信をもって意欲的に表現できるように、「身近な周りの音楽(音)」と関連させ、自ら表現できる生徒を育成する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
器楽・創作において様々な演奏を聴く。それらを自分の表現につなげられるようにする。	音楽の様々な知識及び学習した内容を表現につなげられるように、様々な演奏を聴き、歌唱し、表現の幅を広げる。	学習したことに自信をもって意欲的に表現できるように、「身近な周りの音楽(音)」と関連させ、自ら表現できる生徒を育成する。

令和5年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第1学年…色とレタリングの学習を行い、色彩の知識や文字の美しさを理解することができた。また、道具の使い方を学び、色を美しく丁寧に塗る技術を身に付けた。
- ・第2学年…これまでの制作で学んだことを生かしながら造形制作をすることができた。オリジナリティあふれる作品を個性豊かな色合いで表現することができた。
- ・第3学年…自身で描きたいものを決め、デッサンの基本を学習しながら多角的な視点で作品作りに取り組むことができた。また、これまでの学習を活かしながら制作に取り組んでいた。

(2) 課題

- ・制作の見通しを持つことが苦手。
- ・自分が表現したい主題を主体的に考えることができない。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
色彩と画材について、様々な場面や使用するポイントを抑えても実践となると特に細かい作業が生かしきれない部分がある。	表現の幅が狭く、友人に頼りがちになるなど、主題がなかなか立てられないことがある。	題材に興味を持ち、意欲的に取り組むことができているが、こだわりが浅く仕上げが不十分な点が多々ある。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ものづくりの経験があまりなく、粘土の制作に苦戦していた。粘土の取り扱い方や芯材の取り扱い方を何度も指導したがうまく浸透していなかった。	自ら主題を発想することが苦手な生徒も多く、主題に合った表現を見つけることが困難な場合がある。また、作品を完成させることができない生徒も多数いる。	題材に興味を持ち、意欲的に表現しようと取り組むことはできるが、すぐに飽きてしまい取り組めなくなってくる様子が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
デッサンの基本的な描き方を理解し、鉛筆と消しゴムを正しい場面や表現の仕方で使用し、制作することがおおむねできている。	描きたいものを自ら決め、主体的・多角的に対象物の特徴を捉え、対象物の美しさや個性を表現しながら制作することがおおむねできている。	題材に興味を持ち、意欲的に取り組むことができている生徒とそうでない生徒の差がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き画材や用具の基本的な使い方や知識の定着を図る。 ものづくりでは素材の特徴や道具の扱い方を身に付けていく。	タブレットやワークシートを活用し、写真や動画、実物を用いて発想を広げやすくする。	授業毎に制作を振り返り、今後の流れを確認することによって、自らの制作について考える時間をとる。 振り返りの元、次の作品や次の学期へと繋げられるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使用する道具の危険性についてより周知できるような指導を行う。平面では色や道具についての振り返りを行い、学んだことを生かしながら制作を進められるようにする。鑑賞により知識を深めていく。	生徒が興味関心を持ちやすいような題材、制作の説明を心掛け、美術と関連する身近なものを取り上げ、作品制作を通して表現することの面白さや楽しさを感じさせ、完成へ導く。	授業毎に制作を振り返り、今後の流れを確認することによって、自らの制作について考える時間をとる。 完成後、自分の作品を客観的に鑑賞し、他者の作品を鑑賞することによって、自らの制作に生かせるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工芸を通して身近な芸術品に触れさせ、歴史的知識や作り方などを身に付ける。道具や粘土の特徴、扱い方を理解し今まで習ったことを生かした制作が行えるようにする。	タブレットやワークシートを活用し、工芸品の写真や動画、実物を用いて発想を広げやすくする。	授業毎に制作を振り返り、今後の流れを確認することによって、自らの制作について考える時間をとる。完成後、自分の作品を客観的に鑑賞し、他者の作品を鑑賞することによって、他者の考えや制作の意図に気づかせるようにする。

令和5年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT機器を活用して視覚的に技術の向上を確認させ、生徒に意欲的に取り組ませることができた。
- ・単元ごとに学習カードを記入させ、学習の振り返りをさせることができた。

(2) 課題

- ・ICT機器を効果的に活用し、主体的に学習に取り組む態度を育む。
- ・継続的に運動に取り組む意識付けを行う。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ハードル走の技能やバトンパス、バレーボールなど、習得しているはずの学習内容に差が見られ、技術に差がある。	意欲的に取り組んでいるが、運動の特性や技術習得に対する工夫がやや不足している。	授業に取り組む意識は高いが、個々の課題を追求し、改善点を見出す力はやや不足している。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の習得については、定期考査の結果から全体的に上がっている。技能は運動に慣れてきたこともあり、全体的にボール操作は上達している。	安全面に配慮しながら活動できている。自分で工夫して活動できる生徒と運動の特性の理解と表現が難しい生徒の二極化が見られる。	個々の技能の向上に向けて、自己の課題に取り組むことはできるが、チームの課題を発信する力が不足している。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の習得については、定期考査の結果から、全体的に上がっている。技能はバトンパスや走り方などで、スピードを上げるための効果的な動き方ができている。	安全面に配慮しながら活動できている。自分の改善点を分析し、解決していくことが課題である。	個々の課題について、改善点を見出しながら取り組める生徒とそうでない生徒が二極化している。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な技術のポイントを押さえながら論理的に教え、身体の使い方を覚えさせるために授業内の活動量を増やす。	学習カードを積極的に活用して自己の課題を考えさせ、表現できるようにしていく。	自己の課題を明確に提示させ、技術取得の段階に応じた場の設定を工夫する。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットを積極的に活用し、より深い知識の習得を目指すとともに技能の習得を目指す。	自己の改善点を分析し、解決していけるよう、学習カードを活用して言語活動を充実させる。	学習カードやタブレットを用いて常に振り返りを行い、自ら取り組み、考える意識を育むとともに、学習への興味・関心を高めていく。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
技能の習得に向けて、運動技能のポイントの理解を深めることやタブレットの活用、および実際に体を動かす活動を取り入れる。	学習カードを活用して、言語活動を充実させるとともに、ペア・グループ学習を常に実施することで自己の課題を考えさせる。	学習カードやタブレットを用いて常に振り返りを行い、自ら取り組むことで、考える意識を育むとともに、学習への興味・関心を高めていく。

令和5年度 技術・家庭科（技術分野） 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT 機器を活用し、興味・関心を高めることができ、安全でわかりやすい授業を展開できた。
- ・振り返りシートを活用し、作業進度を各自が確認しながら作業に当たることができた。

(2) 課題

- ・生活の中にある問題を見つけ、自ら考え課題を解決する能力を身に付ける。
- ・ICT 機器を活用し、授業の振り返りの入力や作業方法を提示できるようにし、主体的に学習を進められる力を付ける。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習した知識を実習の中で活用できている生徒が少ない。知識はあるが技能が不足している。	自分の考えたこと表現しようとしているが、うまく書き表すことができない。	個人差はあるが、比較的この生徒もねばり粘り強く学習に取り組むことができている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ICT 機器をうまく活用し、自分の学んだことを表現することができるが、生徒によって作業能力の差がある。	学習した内容の定着は比較的高いが、そこから自身の考えを導き出し、他者に対して伝えることに課題がある。	個人差はあるが、比較的この生徒もねばり粘り強く学習に取り組むことができている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習した内容を実習の中で活用することができる生徒が多い。	これからの生活や作品づくりに生かし、課題に取り組んでいる。	個人差はあるが、比較的この生徒もねばり粘り強く学習に取り組むことができている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒が「できた」「わかった」と思うことができる授業を展開する。また、その内容を分析し、知識・技能の定着を図る。	作業の中で自ら考え行動に移す能力を高める。また、振り返りシートを活用し、自分の言葉で説明ができる能力を高める。	生活の中にある課題から興味を持つ内容を取り上げ、学習意欲を高める。 生徒用タブレットを活用し、作業に対する具体的な指示を明確にすることで、生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒が「できた」「わかった」と思える授業を展開する。また、その内容を分析し、知識・技能の定着を図る。	作業の中で自ら考え行動に移す能力を高める。また、振り返りシートを活用し、自分の言葉で説明をするなど表現する能力を高める。	生活の中にある課題から興味を持つ内容を取り上げ、学習意欲を高める。 生徒用タブレットを活用し、作業の具体的な指示を行うことで、生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒が「できた」「わかった」と思うことができる授業を展開する。また、その内容を分析し、知識・技能の定着を図る。	作業の中で自ら考え行動に移す能力を高める。また、作業工程をタブレットでまとめ、説明ができる能力を高める。	生活の中にある課題から興味を持つ内容を取り上げ、学習意欲を高める。 生徒用タブレットを活用し、作業に対する具体的な指示を明確にすることで、生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。

令和5年度 技術・家庭科（家庭分野） 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎的内容の定着を図る手立てとして、既習内容を振り返る場や繰り返しの学習を充実させることができた。
- ・ICT機器を積極的に活用することで、生徒の興味関心を高め、学びの意欲をもたせることができた。

(2) 課題

- ・既習内容の定着、主体的な学びを目指し、ICT機器を効果的に活用する。
- ・ポートフォリオを用いることにより、計画・実践・評価・改善を行い、課題を解決する能力を身に付けさせる。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校での既習内容は定着しているが、廃棄率や計量の算出に必要な計算など、その内容を活用する力がやや低く、知識習得の差が大きい。	自分や家族の食生活を振り返り、問題を改善、工夫しようとしているが、具体性が乏しい。	課題を見いだそうとする意識は高いが、具体的な改善策を導き出そうとする取り組みはやや少ない。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校での既習内容の定着、基礎的学習内容の定着、レポートをまとめる力等、生徒によって差が大きい。	自分や家族の衣生活を振り返り、既習内容を活用しながら、問題を改善、工夫しようとしている。	課題に対して、自分の生活を振り返り、これからの生活に生かそうとする態度は高いが、粘り強く取り組もうとする態度は個人差がかなり見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教材の活用や振り返り学習を行い、基礎的内容の定着が図られているが、活用する力に個人差が見られる。	様々な情報を活用しながらこれからの生活や作品づくりに生かし、課題に取り組んでいる。	課題に対して、様々な情報を収集し、解決していこうとする意欲が高い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
I C T機器を効果的に活用し、知識・技能の定着を図る。既習内容を振り返る場面や繰り返しの学習を充実させ、既習内容を活用する力を育成する。	自分や家族の生活を振り返り、見出した課題や、収集した様々な情報等を、これからの生活に生かしていく思考力を育成する。	I C T機器の活用や、自己評価や相互評価、協同作業を積極的に取り入れ、より自分の生活に関心をもてるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
I C T機器を活用した一斉指導と個別指導を効果的にを行い、技能の定着を図る。家庭学習を含め、既習内容を振り返る場や繰り返しの学習を充実させ、基礎的内容の定着を図る。	自分や家族の生活を振り返り、見出した課題や、収集した様々な情報等を、これからの生活に生かしていく思考力を育成する。	自分や家族の生活に対して、より関心をもてる教材の開発と授業の工夫を行い、自ら考えようとする力や意欲を高める。 作品製作において、ポートフォリオを用いながら、計画・実践・評価・改善を繰り返し、学習への意欲を高める。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
I C T機器を効果的に活用し、知識・技能の定着を図る。家庭学習を含め、既習内容を振り返る場や繰り返しの学習を充実させ、基礎的内容の定着を図る。	自分や身の回りの人々の生活を振り返ったり、様々な情報を収集したりする中で、見出した課題を解決していく力、これからの生活に生かしていく力を育成する。	作品製作において、ポートフォリオを用いたり、相互評価を行ったりしながら、自己の振り返りと学習への意欲を高める。 I C T機器や教材を効果的に活用し、これからの生活への興味・関心の向上を図る。